安全ネット通信 NO. 2 （2013.11.18 発行）

# ～ともに～ 皆 心一つに

11 月 5 日、長野県安曇野市の豊科南中学校で“弁護士によるいじめ予防授業”が開かれました。講師は、出井博文氏（安全ネット会員）

授業終了後には校長室で、教職員の方々から率直な感想が寄せられました。（授業参観:浅見事務局長）

**「学校では、双方の言い分に耳を傾けようとして何事も断言できなくなることが、少なくありません。出井講師が、『いじめは、人権侵害です。絶対に、してはならないことです』と言い切られたことに、感動しました」**

**「いじめを傍観している子どもたちが、自分もいじめを防ぐ存在になりうるのだということに気づいてくれたのではないかと思います」**

安曇野市立豊科南中学校（学校HPより）

☆運営委員より一言

世の中で一番近くにいる“友だち”は、自分自身。

朝、歯を磨きながら
　鏡の中の自分に向かって「おはよう！」
夜、歯を磨きながら
　「どうしたの？元気がないね」と語りかけてみて

そして、いつの日か、友だちにも声掛けを！

## いじめ予防へ 弁護士「授業」

### 豊科南中で人権保護訴え

安曇野市の豊科南中学校（藤松伸一郎校長）で5日、2年生117人を対象にした「弁護士によるいじめ予防授業」が開かれた。専門知識を持つ弁護士が具体的な事例や対策を伝え、いじめ予防を呼び掛ける内容で、同様の授業の実施例は全国でもまだ数少ないという。豊科南小PTA会長で弁護士の出井博文さん（45）が講師を務め、人の心を追い詰めて命すら奪う「いじめ」の恐ろしさを伝え「人権を侵害する許されない行為」と訴えた。（細野はるか）

体育館に集まった生徒たちを前に、出井さんは東京・中野富士見中学校で昭和60～61年に起きたいじめの事例を話した。2年生の男子生徒が「葬式ごっこ」などと書かれておけて自殺したことなどを説明し、いじめに使われた追悼色紙をプロジェクターに映し出した。色紙には「安らかに眠れ」「さようなら」などと書かれており、出井さんは「クラスのほぼ全員がいじめに加担したという事実が男子生徒の心を追い詰めた」と指摘した。

予防に向けては、いじめを見ている「傍観者」がいじめを止められる可能性が最も高いとし、傍観者がどのように行動するかがいじめを防ぐポイントになると話した。

授業を聴いた横川俊介君（13）は「いじめる側が悪ふざけだと思っても、自殺まで追い込んでしまうことがある。とても怖いと思った」と話した。

出井さんが2月に開かれた弁護士の研修会で、東京などで「いじめ予防授業」が行われていることを知り、県内でも実施したいと考えた。3月に豊科地域のPTA役員や校長らが集う懇談会で、出井さんと藤松校長の意見が一致し、授業を開くことにした。20日には豊科南小の6年生を対象に授業を実施する。

弁護士の出井さん（右）が講師を務めた「いじめ予防授業」

【市民タイムス】2013年（平成25年）11月6日（水）

（記事は学校安全ネットワークのホームページにも掲載しています）

## 『第三者委員会』に関する動向

### いじめ調査に第三者～文科省基本方針

文部科学省有識者会議は今年十月、大津いじめ自殺事件問題をきっかけに成立した「いじめ防止対策推進法」の中で策定が求められていた、国の基本方針をまとめました。

①いじめ発生時に行う調査の中立性・公平性確保のため第三者の参加を求める
②学校や教育委員会がいじめの認識を持っていなくとも、児童生徒や保護者から被害の訴えがあれば調査を行う
③調査結果は被害者側に適切に提供される必要がある

などの提言が行われました。

### 真岡市亀山小学校 給食事故

平成二十二年、栃木県真岡市立亀山小学校で当時小学一年生の男児が、学校給食の団子汁の中に入っていた白玉団子で窒息して脳死状態になり、約三年後に死亡した事件に関する、第三者委員会の報告書がまとまりました（全四十一頁）。

### 足立区 中学生自殺事件

平成二二年十月に足立区の中学三年生が自宅で自殺した事件に関する調査委員会が、翌二十二年三月二八日に発足しました。委員は、横湯園子委員長（子どもの権利のための国連NGODCI日本支部副代表）、亀田徹副会長（㈱PHP研究所教育マネジメント研究センター長）、鈴木高弘氏（専修大学附属高等学校理事）、武田さち子氏（NPO法人ジェントルハートプロジェクト理事）の四名。

本年一一月中にも、調査報告書が出る予定です。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

安全ネットでは今後、学校事故・学校安全に関する第三者委員会の在り方を考えるための学習会を企画してまいります。どうぞご参加を！

## ＊活動紹介＊　抜粋。詳しくはホームページをご覧ください　http://gakouanzen-network.com

学校安全全国ネットワークは、子どもの最善の利益を確保する立場から、学校安全の質の向上と普及啓発をはかっています。

学校安全
全国ネットワーク

TOP ページ | 本会について | 入会案内 | 相談活動 | 普及活動 | 提言活動 | 関連リンク | サイトポリシー

### 相談活動

**学校安全相談活動**

学校管理下で起こる事故・トラブルは、非常に多岐に渡ります。

- 授業中や昼休み・放課後に負傷した。あるいは、他の児童生徒を負傷させてしまった。
- 部活動の練習中に体調不良を訴えて病院に運ばれ、治療を受けたが後遺症が残った。
- 児童生徒から「いじめを受けている」との相談を受けたが、対処の仕方が分からない。
- 遠足や林間学校、修学旅行などの課外活動中に児童生徒が事故に遭い、死亡してしまった。

安全ネットでは、学校生活における事故・トラブルに関わった当事者の方々からの電話相談を受けつけています。事故・トラブルの被害を受けた児童生徒・その保護者はもちろん、期せずして加害者になってしまった児童生徒・その保護者、あるいは問題解決のために心を砕いておられる教職員の方々からのご相談にも応じます。

› ご相談方法

**電話によるご相談**

相談専用電話番号：03-6268-9363
毎週木曜日 11：00～17：00（祝日を除く）

**メールフォームによるご相談**

メールによるご相談受け付け

### 提言活動

**学校管理下の子どもの事故防止・学校安全の促進**

子どもの最善の利益を確保し学校の安全環境の改善をうながす立場から、国・自治体・学校現場の各レベルにおいて学校安全・事故防止に関して、以下の取組みを促進します。

- 国による学校安全体制の確立
- 教育委員会など学校設置者による学校安全体制の確立
- 学校による安全体制の確立

**学校災害被災者の総合的な支援の促進**

学校管理下などで不幸にして起きた子どもの事故の被災者に関して、子どもの最善の利益を確保する立場から、総合的な支援活動を促進します。

- 学校災害被災者・家族が孤立することのないように、被災者間の交流、情報交換などネットワーク化を進めます。
- 学校災害被災者が安心して相談できる環境整備を促進するとともに、心理的、法的、医療的その他の相談システム（相談員養成・研修・アドバイザー制度等）の確立を促進します。
- 自治体・国の各レベルにおける学校災害の相談・救済制度などの質的向上・促進をはかります。

# ＊公開学習会 ～お知らせ・ご案内～

教育を考えるには、まず学校の現状について学ぶ必要があります。
安全ネットでは“公開学習会”として、学校現場について勉強会を開催しています。
第１回は学校長・養護教諭、第２回は学校事務職員から見た学校現場（下記参照）について、それぞれ講師をお招きしてお話を伺いました。
そして第３回のテーマは、“スクールカウンセラーから見た学校現場”です。

## 第３回公開学習会のご案内

日　時　２０１３年１２月６日(金)
　　午後７時～９時

場　所

早稲田大学戸山キャンパス
文学学術院（３３号館）
１６階 第１０会議室

資料代　会員　　７００円
　　一般　１，０００円

講　師　久山（くやま） みちる 氏（臨床心理士）

高等学校英語科教諭を経て、ハワイ大学大学院修士課程修了（スクールカウンセリング専攻）。

現在、川崎市の公立中学校２校および筑波大学附属中学校・高等学校のスクールカウンセラーを務める。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

## 第２回公開学習会　開催報告

2013 年 9 月 6 日（金）午後 7 時～9 時

講師　小舘 映子 氏（稲城市立稲城第二中学校事務職員）

「施設・設備とのかかわりから」と題し、学校事務職員の目から見た学校安全についてお話しいただきました。事務職員の仕事の多さと幅広さに、驚きを隠せませんでした。

※レジュメと講演内容のまとめは、後日、資料としてご希望の方に有料にてお届けいたします。

# ＊活動報告（普及活動）

### ～各方面へ、安全ネットの活動への協力依頼～

浅見事務局長・木村理事が 10 月 10 日、東京・麹町の全国教育文化会館（エデュカス東京）を訪問。第３回公開勉強会の案内を携えて、学校安全に関して活動している諸団体に向けて、安全ネットの説明を行うとともに、今後の協力依頼を行いました。

| | |
|---|---|
| 東京母親大会連絡会 | 170 部 |
| 婦人民主クラブ | 200 部 |
| 市民活動の広場 | 340 部 |

※団体名の後の数は、第3回公開学習会の案内配布数

さらに、子どもの権利・教育・文化全国センターでは、石川喩紀子事務局次長と面会。今後、同センターに寄せられる相談を、適宜安全ネットに回すなど連携体制をとっていく旨、非常に力強い賛同を得ました。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

ほか、学校安全や児童生徒の福祉を考える各種催しにて他団体との交流や意見交換を、積極的に行って参ります。

〇終了した予定

スクールソーシャルワーク協会秋期研修会　in 岐阜
子どもの育ちを支えるしくみを考える集会　in 諏訪
自殺防止のための授業　in 長野（p1参照）

◎今後の予定

子どもの権利条約フォーラム 2013（11 月 16 日・17 日）
学校事故・事件被害者全国弁護団創立総会（11 月 17 日）

# ＊安全ネットがお薦めする　この一冊！ *Vol. 1*

## 「いじめられる側に、原因や理由はありません」
## 「親にだけは、話せないんです」

1998 年、当時高校一年生だった一人娘を
いじめ自殺によって失った小森美登里さん。
我が子を守れなかった後悔と、深い悲しみ、
そして“いじめ問題”に関する様々な疑問…。

悩み、模索するなかで小森さんは、愛娘の
死を個人的な経験に終わらせず、次の時代へ
生かす活動を始めました。

いじめや暴力のない社会を目指し、夫婦で
NPO 法人エンジェルハートプロジェクトを
立ち上げたのです。現在までに全国の学校や
教育委員会で、「心と命の大切さ」を伝える
講演会を、1,000 回以上行っています。
学校の先生、子どもたち、ＰＴＡ関係者ら
多くの人々との出会いから、いじめの問題が
被害者だけではなく加害者や傍観者となった
子どもたちにも、後々まで大きな影響を及ぼし
人生をねじ曲げてしまう現実を知りました。

＊　＊　＊　＊　＊

本書は、すべての子どもを守りたいという
揺るぎない思いに貫かれています。背景には、
命を奪うことの重大さに関する鈍感さ・希薄感が
社会全体に広まっていることに対する危機感もあります。
著者は、すべての大人に投げかけます。
いじめの問題を解決するには、それに関わるすべての大人繋がり、問題を共有することが必要です。
互いに協力し知恵を出し合って再発防止策を講じていくことが、いま、急がれています。（紹介者　浅見洋子）

著者　小森美登里　　発行所　WAVE 出版
定価　￥1,200 円（＋税）
2013 年 4 月 30 日　第 1 版第 1 版発行
書籍サイズ　19 cm×13 cm、111 ページ

## 安全ネット　入会のご案内

私たちの活動は、皆さんの会費で運営しています。
学校安全に関する相談をはじめ、当会の事業に対する
ご理解・ご賛同をいただきますよう心よりお願い申し上げます。

**年会費●会員　3,000 円　　◎賛助会員　5,000 円**

**郵便為替での　お手続きは**
**振込先　00130-9-346463**
**加入者　学校安全全国ネットワーク　まで**

☆ **刊行元・お問い合わせ先**
**学校安全全国ネットワーク**
TEL:03-3511-5070
FAX:03-3511-5784
E－mail:uta@yoko-no-heya.jp
事務局所在地　〒102-0071
東京都千代田区富士見2-7-2
ステージビル 1706 号　南北法律事務所内